

風のひろば

JULY
2016

vol.8

大学院修士課程NPコースの前進

大学の今

トピックス

退任・新任教職員の紹介

卒業生インタビュー

研究紹介



大学院修士課程NPコースの前進

◆既修了者に「特定行為研修(21区分38行為)」の修了証の授与

平成26年に成立した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」に基づいて、保健師助産師看護師法の一部が改正され、27年10月から「特定行為に係る看護師の研修」が制度化されました。それには、本学のNPコース修了生の活動成果が社会的な認知を受けたことも貢献しており、本学NPコースは、厚労省が指定する21区分38特定行為全ての研修を行う指定研修機関として平成27年10月に認可されたこともこれまでに報告してきました。

この制度が開始される以前、平成20年に本学では大学院NPコースを開講し、2年間の大学院教育の中で特定行為研修内容を学習するカリキュラムを展開しており、これまでに31名の診療看護師を社会に輩出してきました。本年3月10日、特定行為研修管理委員会が開催され、審査の結果、本学NPコース修了生全員が「特定行為研修(21区分38行為)」が免除となり、修了生31名に特定行為研修修了証が授与されま

した。本学の教育内容は特定行為だけでなくとどまらず臨床推論や研究的な能力も養うものです。修了生にはその能力を活かして、「患者の全身を診る」、「患者のQOLを考える」、「チームで活動する」診療看護師として今後の活躍を期待しています。



平成27年度修了生に手渡された学位記と修了証

◆大分県「地域枠」を創設

診療看護師に対するニーズは県内外に高まっています。長崎県では本学の修了生2名が離島での勤務を始め、その活躍に目を見張るものがあると高く評価されています。大分県でも地域包括ケアに向けて診療看護師の確保は重

要な課題となっています。これまでの養成数では近い将来不足が見込まれるため国や県からの助成を受け、平成28年度入学生から定員を5名から10名に増員し、地域枠(大学院修了後は大分県の医療に貢献する者)を設定して看護の人材確保を強化することとしました。また、質の担保のため実習室の整備と教材の充実も図ってきました。今春入学した10名のNPコースの学生も仕事との両立を図りながら夜間の授業にいそしんでいます。大分県の医療、福祉機関との連携を一層強化し、大分県に貢献できる診療看護師の育成に努めていきたいと思っています。



平成28年度NPコース入学生と講師
(写真2列目中央:本学NPコース3期生田村委子さん)

◆実習協力施設を拡大して実習が開始

NPコースの実習には大分県立病院やアルメイダ病院をはじめ、大分県下20施設余りが実習施設として診療看護師の育成に協力していただいています。これは、附属病院をもたない本学の特徴であり、多くの医療・福祉施設により教育が強化されています。今年は学生増に伴い実習施設数も拡大しました。指導医や看護指導者などに直接指導を受けることで、患者さんを中心としたチーム医療を学んでいます。



実習施設「大分岡病院」にて医師や看護指導者から指導を受けるNP実習生

大学の今

日本文理大学との合同シンポジウム

平成28年2月11日(木)、ホルトホール大分で大分県立看護科学大学と日本文理大学が共催で「地域をまもり、地域をつくる、大学の取り組み」をテーマとして「成果発表会&合同シンポジウム」を開催しました。地域の方々、自治会を含めた関係者、高校生など幅広い年齢層の方々に参加の300名が参加いただきました。



前半は、両大学の取り組みについて成果発表を行い、荻本明日香さん、宮本季歩さんが「高齢者の健康の維持・増進に向けた予防的看護の関わりについて」、岩本美

穂さん、倉光真由さんが「一人暮らしの高齢者が生きがいをもって若々しく過ごすために」をテーマに発表を行いました。

後半は、「大分の未来をまもり、つくる人材育成の可能性」というテーマで、企業、行政、医療機関、大学の各立場のパネリストのもとでパネルディスカッションを行いました。これからの地域や大学、医療の在り方を考えることができた貴重な会となり、活気のあるパネルディスカッションとなりました。

「大分県の助産師養成を考えるシンポジウム」の開催

平成28年5月21日(土) 13時から、本学の23講義室において、表題のシンポジウムが開催されました。シンポジスト5名を含む54名の参加があり、総合討論では活発な討議がなされました。参加した学生は、「修了生の話を聞き、自分が目指したい助産師像について考えることが出来た」、「今の助産師に求められているものや、本学、他大学や養成所での学びの違いなどが明確になった」など感想を話していました。



ホームカミングデイ

5月15日(日)、本学、四つ葉会(本学同窓会)、草の実会(大分県立厚生

学院の同窓会)の3者共催で、第4回ホームカミングデイを本学食堂で開催しました。59名(四つ葉会24名、草の実会17名、旧教職員1名、現教職員17名)が参加しました。村嶋幸代学長、後藤成人四つ葉会会長、阿南和代草の実会会長の挨拶の後に、高知県立看護学部(基礎看護学)助教の山口智治さん(本学7期生)と大分県立病院副院長兼看護部長の玉井保子さん(厚生学院看護科27回生、保健助産学科30回生)よりスピーチをいただきました。その後の懇親会は、本学に関わりのあ

る多くの方々や、同窓生の懐かしい顔ぶれなどが集まり、大盛況のうちには終了しました。

ホームカミングデイは毎年開催する予定です。たくさんのお客さんの参加をお待ちしております。



大分県内施設に就業する卒業生と在学生との交流会

5月15日(日)、若葉祭の2日目に「大分県内施設に就業する卒業生と在学生との交流会」を開催しました。本交流会は食堂で行い、9施設22名の卒業生・修了生、在学生12名が参加しました。和やかな雰囲気の中で卒業生・修了生の話を聞く在学生の姿が印象的でした。

参加した在学生は、「先輩の施設を決めた話の話を聞いて、どういう施設に就職するのかなどいろいろ聞けました」という感想を話してくれました。



熊本地震、その時本学は

熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

4月16日(土)の地震発生直後、本学では、直ちに学生の安全確認を行うとともに、キャンパス内を点検しました。負傷した学生や施設の損傷はなく、大分市内の交通機関も平常どおりの運行が見込まれていました。18日(月)から通常どおり講義を実施しました。その後、余震が続きましたが、校外での実習にあたっては、安全確保を第一に配慮しながら、地震災害を補償する損害保険への加入を学生に促す等、担当教員を中心にできるかぎりの対応をまいりました。

今後とも学生が安心して勉学に励み、学生生活を送れるよう、教職員一同全力でサポートしてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。なお、今回の地震で、大きな被害に遭われた湯布院病院(実習施設)に見舞金をお贈りしました。

若葉祭



5月14日、15日に第18回若葉祭(大学祭)が「青春(アオハル)」をテーマに開催されました。たくさんの地域の方々が訪れてくださり、大盛況でした。ご支援、ご協力いただきました関係各位に心よりお礼を申し上げます。

臨床教授制を始めました

本学では、臨床教育指導体制等の充実を図ることを目的に、平成28年度から臨床教育に協力する医療機関等の指導者に対して「臨床教授」の称号を付与する制度を創設しました。今年度は24施設、55名の方に感謝の想いも込めながら臨床教授証をお届けしました。臨床教授の皆さまには本学の臨床実習指導等に、引き続きご協力をお願いいたします。また、本学の臨床実習にご協力いただいております、全ての医療機関の皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

名が入学しました。

新入生の名前が村嶋学長より一人ずつ読み上げられ、入学が許可されました。入学生の皆さん、そしてご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。

予防的家庭訪問実習オリエンテーション



平成28年4月13日(水)に予防的家庭訪問実習オリエンテーションを開催しました。学生331名、教職員74名が参加し、実習についての目的や意義、内容について説明を行い、2～4年次生が昨年度の学びを発表しました。

また、大分郡市医師会(岩波内科クリニック院長)の岩波栄逸様、大分市市民部野津原支所長の渡邊信司様をお招きし、地域の活性化、行政と大学の連携、これからの医療の在り方をキーワードに学生へ向けて講話をしていただきました。午後からはグループワークを行い、1～4年次生までが一緒に今後の実習の進め方を検討しました。

卒業証書・学位記授与式



3月18日(金)、平成27年度卒業証書・学位記授与式を開催しました。学部卒業生78名、大学院修士課程修了生16名、博士課程修了生4名全員に村嶋学長から一人一人、卒業証書および学位記が手渡されました。今年は、博士課程修了生が10名を超える記念すべき年となりました。卒業生、修了生の皆様、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

入学式



4月7日(木)に、入学式が執り行われました。学部生86名、大学院博士前期(修士)課程31名と後期(博士)課程6

公開講座

本年度の公開講座のテーマは、「自殺予防対策と看護職の役割」。みなさんのご参加をお待ちしています。

- ▶ **日時** 平成28年9月17日(土) 13:00～17:00
- ▶ **場所** ホルトホール大分 302・303会議室 (大分市金池南1-5-1)
- ▶ **資料代** 500円(但し、学生は無料)

申し込み・お問い合わせは下記まで
TEL 097-586-4300 e-mail: kokai@oita-nhs.ac.jp

プログラム

- 13:00 開会
- 13:15 講演1 「住民と共に目指す『自殺のない住みよいまち』」
甲斐 弘美(豊後大野市役所 市民生活課 健康推進室)
- 14:00 講演2 「自殺対策で期待される看護職の役割」
影山 隆之 教授
- 15:00 講演3 「地域の医療機関の救急看護師が行う看護」
杉本 圭以子 講師
- 16:00 討論
- 16:45 閉会

第18回看護国際フォーラム

今回のテーマは「認知症の人と紡ぐ看護実践～今、私達に求められる看護のチカラ～」です。

- ▶ **日時** 平成28年10月29日(土) 12:30～17:00
- ▶ **場所** 別府ビーコンプラザ 国際会議場 (別府市山の手町12-1)
- ▶ **参加費** 一般2,000円、学生500円(資料代等)

◆同時通訳用レシーバー1,000円別途 ◆応募方法等の詳細は本学ホームページをご覧ください。 ◆募集 e-mail: forum2016@oita-nhs.ac.jp

講演

- 「認知症とともに、よりよく生きる」
吉田 美穂 水谷 佳子
(NPO法人認知症当事者の会)
- 「日本と大分の認知症施策の方向性と看護職への期待」
吉田 知可(大分県福祉保健部高齢者福祉課)
- 「的確にアセスメントし、せん妄を予防する」
小川 朝生(国立がん研究センター 東病院)
- 「重度認知症患者が快適に過ごすための看護の在り方」
キャロル・O・ロング(米国における高齢者看護ケアの専門家)

新任教職員のご紹介



成人・老年看護学研究室
准教授
森 加苗愛

この度ご縁があり成人・老年看護学研究室に着任いたしました。私はこれまで、主に慢性疾患をもつ人への看護実践と研究に携わってきました。特に糖尿病一次予防活動や慢性疾患をもつ人のより豊かな生を支える研究活動に今後力を注いでいきたいと思っています。

また、医療職者を目指す学生と、大分県の皆様に少しでもお役に立てるよう努力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



地域看護学研究室
准教授
川崎 涼子

夢だった修士課程での保健師教育に従事することができ、充実した毎日を過ごしています。挑戦と新しい出会いの連続に何もかもが新鮮です。学部から入学した修士課程の院生も多いので、大学の歴史など教えてもらっています。地域看護学実習や総合実習で学部の4年生に会えるのも楽しみです。大分の美しい風景と美味しい食べ物を満喫しながら院生、学生のみなさんと一緒に学び研究していきたいと思っています。



看護アセスメント学研究室
助教
山田 貴子

昨年の9月から看護アセスメント学研究室に着任いたしました山田貴子と申します。4年前に本学大学院（博士前期課程）を修了し、ご縁あって大分へ戻ってまいりました。

学生の皆さんとの出会い、多くの方々との出会いを大切に、教員として学生の皆さんや地域の皆様に貢献できるよう精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



成人・老年看護学研究室
助教
堀 裕子

2年ぶりに成人・老年看護学研究室に戻ってきました。今回から、周手術期看護を担当することになり、18年間外科病棟で実践したことが活かされればと考えています。

私の研究テーマは、放射線看護です。放射線科病棟にも勤務していた経験がありますが、大学院では、原発周辺の住民に対する放射線知識やリスク認知について調査しました。今後も福島には「よろず相談」で、足を運んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



環境保健学研究室
助手
恵谷 玲央

4月から人間科学講座・環境保健学研究室に着任いたしました。診療放射線技師免許を取得し、これまで主に放射線の健康影響について研究活動に取り組んできました。教育現場での経験はなく、看護教育に携わるといった責任感を日々痛感しております。

本大学における看護教育研究の発展に尽力するとともに、自身も成長する機会を多く得られることを非常に楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局 理事 兼 事務局長
飯田 隆次

4月に大分県福祉保健部子ども子育て支援課長から事務局長に着任しました。事務局は総務グループ、教務学生グループ及び図書館管理グループで構成され、授業や試験などの教育に関する事務をはじめ、学生生活の支援、図書の設定や貸出、さらには施設の管理・利用許可等の多岐に亘る業務に携わっています。

これからも、学生の学びや教員の教育・研究効果が最大限となるよう支えていきたいと思っています。どうぞ、宜しくお願いします。



事務局 総務グループ
リーダー
石倉 順

県庁国際政策課から参りました。前職では、海外からの来賓対応をはじめ、新規事業の立案・実施、大きなイベントの開催など、忙しい毎日でした。

看護科学大学もうわさに違わず忙しい職場で、相当気合いを入れる必要がありそうです。

事務局総務のとりまとめとして、職員の皆さんの体調管理に気を配り、健康で働きやすい職場づくりを目指してがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局 教務学生グループ
副主幹
矢野 昌哉

4月1日付けで教務学生グループに着任しました。学校の事務は初めてで、毎日戸惑っています。

大学の前は、久住方面の行き帰りに何度か車で通ったことがあるのですが、実際に中にはいってみると、結構広いんだなあと感じました。グラウンドまでであるとは知りませんでした。

教職員そして学生の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。



事務局 総務グループ
主査
高橋 めぐみ

4月から事務局総務グループに着任いたしました。教育研究審議会に關することや、研究倫理・安全委員会の事務等を担当しています。

これまででは、大分県福祉保健部監査指導室で、老人福祉施設や介護保険事業所の指導監査を担当していました。現在、慣れない事務仕事に、毎日必死に取り組んでいます！

趣味はソーイングで、浴衣も縫えます。ここ数年は、毎年娘の浴衣を新調しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退職教員のご紹介

大変お世話になりました。新任地での活躍を祈念いたします。

退職年月日：平成28年3月31日

職名	氏名	在職期間
特任教授	佐藤 玉枝	3年
特任教授	大下 敏子	1年
准教授	矢野 美紀	1年
特任講師	松本 初美	7年
助教	石岡 洋子	8年
助教	石川 純也	3年

メッセージご紹介

大分県 総務部理事（平成28年3月末まで本学理事 兼 事務局長）堤 健一 様からメッセージをいただきました。



在任中は、村嶋学長はじめ教職員の皆様にご大変お世話になりました。特定行為研修制度の創設など、看護界を取り巻く環境が大きく変動し、看護師の役割が拡大するとともに、その重要性が増している中で、NP学会の設立と第1回学術集会の本学での開催、COC事業の推進、養教一種養成課程の開始など、看護教育の最先端を走る本学の最も大切な時期に、熱意に溢れた皆さんと一緒に仕事が出来たことは、とても意義が充実したものでした。また、スキルアップ演習での模擬患者役なども楽しい思い出です。本学で過ごした幸せな時間は私の宝物になっています。本当にありがとうございました。今後も大学がさらに充実・発展していくことをお祈りしています。



アルメイダ病院 副院長兼看護部長
甲斐 仁美さん
(大学院博士課程(後期)修了)

私は、国際協力を目標に看護師の職業を選択し、日本で約7年の臨床経験を積み、青年海外協力隊員として2年間、中米のニカラグアで活動しました。帰国後1998年に大分大学教育福祉科学部に社会人入学、2002年大分県立看護科学大学に修士課程の1期生として進学し、修了後は博士課程の1期生として学ぶ機会を得ました。博士課程進学後、第二子を出産し、国際看護学研究室で助手として勤務しました。ソウル大学への交換留学、カザフスタンへのJICA専門家派遣、ウズベキスタンJICAプロジェクトへの同行など、在籍中には多くの事を学びました。心より感謝しています。

2007年、アルメイダ病院に教育担当部長として就職し、継続教育の基礎システムを構築しました。2008年に副看護部長、2009年に看護部長となり450名の看護職員を取りまとめる立場となりました。2015年、副院長の昇格の際、アルメイダ病院の看護職の代表として感謝したと同時に、看護職員で喜びを分かち合いました。また、2010年からは大分県看護協会で大分地区理事の役割を6年間務め、大分県や日本全体の看護について考え討

議することができました。大学院時代に学んだことは、どのような困難に遭遇しようとも「くじけない精神」を持ち、Creativeな発想と行動ができることの重要性です。しかし、アルメイダ病院に就職後、くじけそうになった時、困難に感じた時、何度も大学の研究室に行き、先生方と話ししました。先生方が話す時間を持つことで、気持ちが整理され、多くの示唆を得ました。先生方には心より感謝いたします。今後は、私自身が誰かのお役に立てる様、精進したいと思えます。



JCHO湯布院病院 看護師
元永 諒さん (13期生)

私は、平成26年3月に本学を卒業し、同年4月にJCHO湯布院病院に看護師として就職しました。1年目は、主に急性期を脱した脳血管疾患患者へのリハビリを行う、回復期リハビリテーション病棟に所属していました。ここでは重度な身体障害や高次脳機能障害を抱えた患者が入院しており、最長で6か月のリハビリを行っています。急性期を脱しているため、医療的な処置を行う場面は多くありませんが、生活援助や家族への指導、失語患者への関わりなど、患者の生活を支える看護師の役割

を学ぶことができました。2年目からは新設した地域包括ケア病棟に所属しています。入院患者のほとんどが湯布院町近郊で在宅生活を送っている方で、急性期疾患の入院加療や、手術・治療に伴う廃用や加齢に伴う筋力低下に対してのリハビリなど様々な疾患・目的を抱えています。幅広い疾患に対しての知識を身に付ける必要があり、学び続けることの大切さを実感しています。

在宅復帰に至るまでには身体的な問題や介護者の思いや心身のトラブル、介護サービスの調整など様々な課題があり、患者の問題を見極めて、個別性に沿った看護を展開していく必要があります。

私は看護過程の展開が苦手でしたが、一人だけで抱え込むだけでなく、カンファレンスを通して、先輩からの指導やアドバイスを頂き、チームで協力しながら看護を展開していくことができています。また、退院後の生活を想定して、セラピストやケアマネージャーなど他職種との調整役としての役割も果たさなければならず、他職種との調整の困難さやチーム医療の重要さを学ぶことができました。

当院は4月の熊本地震で被災し、病院・地域生活者とも困難な状況にあります。地域生活者一丸となって入院患者・地域生活者を支えるために頑張っています。

私はまだ看護師としては未熟ですが、学び続けていくことを忘れずに正確な知識・技術を身に付けて患者に信頼される看護師になれるように成長したいと思えます。

看護学実習を終えて

「基礎看護学実習」

今回の実習は初めて受け持ち患者さんを持たせていただき、たくさん学ぶ実習になった。まず学んだのはコミュニケーションの大切さである。患者さんの情報を収集する時に、ただ話を続けることができるのがコミュニケーション能力ではなく、その時の患者さんの様子や状態にあわせて、適切な会話の内容や時間を選択し、必要な情報を速やかに聴取できる力が必要だと感じた。

また、患者さんのことを知りたいときには、本人から話を聞くことももちろん大事だが、家族や身の回りの人たちに話を聞いてこそ分かることが、たくさんあると感じた。私は奥さんに過去の話聞き、違和感のあった受け持ち患者さんの発言や心境を知ることができた。

さらに患者さんの回復・離床に向けての援助をしていくためには、得た情報をもとに、その人にあった援助を選択し実施することが重要であることを学んだ。そのために2年生では、疾患や治療などについての知識を深めると共に、アセスメント技術をしっかりと身につけていきたい。



2年次生 後藤 壮登

「老年看護学実習」

私の今回の実習先である介護老人福祉施設は、重度の障害や認知症のため、自宅で介護を受けることが困難な方が入所されており、多くの方が最期を迎えられることとなる場所です。入所されている方々の性格や生活歴などもまったく異なるため、施設ではその人にとっての自立や、そのために必要な自立支援について考え、「その人らしさ」を大切にしたい個別ケアが行われていました。

また、常勤の医師がいない施設では、看護師が自身の五感や介護職などほかの職種から情報を収集し、その情報からアセスメントを行い、必要な観察やケアを判断しなければならず、より一層の責任が伴う質の高い看護が求められていると感じました。

基礎的な知識や技術、アセスメント能力を身につけることも大切ですが、医療や福祉にまつわる社会情勢にも目を向け、これからの時代に求められる看護師について考えながら、日々、学習を深める重要性を改めて実感し、短い期間でしたが、学びの多い実習となりました。



3年次生 岡村 里菜

近年、日本人の寿命が延びていることと相まって、日本の65歳以上人口構成比は30%に近づき、超高齢化社会をむかえています。この高齢化による医療費の増加が、日本国の負債を増やし続けている大きな要因であることは言うまでもありません。特に、高齢化の寝たきりや介護の立場からも大きな社会問題です。その高齢者の寝たきりの原因の一つに骨折及び骨折治療の遅れが挙げられます。そして、高齢者の骨折治療の遅れは、高齢者の様々な基礎疾患(動脈硬化や糖尿病など)に起因すると考えられています。

私は、骨芽細胞において動脈硬化が原因の低栄養状態(飢餓)や低酸素などのストレスにより、骨形成に重要なI型コラーゲンやオステオカルシンなどの分泌タンパク質が分解されることを見出しました。本研究は、ストレスにより誘導される新規の分解機構がどのように骨芽細胞における骨の再構築へ関与しているかを明らかにし、骨折の治療過程に対する治療的応用へと展開するための研究基盤を確立することを目的として研究を進めています。

骨芽細胞によるI型コラーゲン(骨基質を構成する)やオステオカルシン(Ca²⁺の沈着に重要)などの分泌は、骨形成に必須のプロセスです。しかしながら、虚血などのストレスによる骨形成の抑制機構については、不明な点が多いのが現状です。私は、動脈硬化などに

よる虚血ストレスにより、骨芽細胞において、オステオカルシンやI型コラーゲンなどの分泌タンパク質の分解が小胞体膜プロテアーゼであるセクレターゼで制御される新規分泌調節機構を見出し、この機構により骨形成が妨げられている可能性が示唆されました。

現在、骨形成に関する培養細胞の実験では、これまで、マウスの骨芽細胞由来のMC3T3-E1細胞が用いられてきましたが、培養の条件により、骨細胞への分化が不安定であることが問題視されてきました。我々は、この不安定性を克服するために、マウス頭蓋骨の骨芽細胞から、MN16細胞を樹立し、骨細胞へ安定的に分化する系を確立しました。新規に樹立・作成したMN6細胞と新規分解機構を制御するセクレターゼのノックアウトマウスを駆使して骨芽細胞のまだ解明されていない分野(小胞体内分泌タンパク分解機構)の研究を行い、骨形成過程の解明のみならず、骨粗鬆症や骨折の治療薬を開発するための基盤研究を行っています。



生体科学研究室 教授
濱中 良志

Research introduction

研究紹介



まつわりて、うるさきハエの去りしあと、しばし、ここはゆえなく、さびし。

これは筋萎縮性側索硬化症(以下ALS)患者さんの歌です。手、足が動かなくなつた最重度の患者さんが、患者さんの思いで書かれたこの詩から、患者さんの状況と心情が伝わってきます。身体が自由がきかなくなつても、知性や感性は非常に研ぎ澄まされており、それゆえにこそ、ALSはより過酷な疾患と言えます。そういう難病であるALSに対して、私は患者さんの睡眠について考えてきました。

四肢可動が減少して、寝たきり状態になると、疾患の予後に関連した不安や抑うつ、夜間睡眠時の痰の吸引や体位変換などによる睡眠中断で、不眠が生じやすい状況にあることを事前調査で確認しました。このようなALS患者さんの睡眠を的確に把握するには、睡眠状態を客観的に捉えることが前提となります。睡眠研究では、睡眠ポリグラフ検査を行う必要がありますが、その装置は大きかりで、脳波判読には熟練した知識と技術が必要で、簡便に実施することは困難です。

ところで、睡眠と麻酔とは脳波において共通するメカニズムの存在することが確かめられており、今回の研究では、睡眠ポリグラフ検査の代替として、脳波をベースにした麻酔の深度を測定する催眠レベル測定指標(BIS)を用いて、睡眠の状況と客観的指標としての

有用性を検証しました。その結果、①体位変換や喀痰吸引等が行われる度に、睡眠中断が生じ、その後の再入眠が困難であることをBIS値で確認できました。②特に疾患が進行し、無言、無動のTLS (totally locked-in state 完全な閉じ込め状態)に陥つた場合や脳萎縮のある患者さんではBIS平均値が低く、③疾患の重症度により睡眠持続時間は長くなる傾向を示しました。

以上のことから、BIS値はALS患者さんの睡眠深度評価指標として有効で、睡眠を障害することなく、睡眠状態の把握を簡便に行えることで、有用性が高いと考えられました。また、特に疾患が進行し、無言、無動の状態となり、重度のコミュニケーション障害に陥つた場合などにも睡眠を障害することなく、必要な支援を実施するための睡眠状態の把握にBISの活用が有効であると考えられました。

今後はALS患者さんのみならず、意識障害のある患者さんにもBISを用いた睡眠支援について検討していきたいと考えています。



基礎看護学研究室 准教授
伊東 朋子

大学公式フェイスブックにアクセス!

本学からの情報発信と利用者間の交流を目的とした本学の公式フェイスブックにアクセスしてください。

日々のちょっとしたエピソードも掲載中!



<http://www.facebook.com/OitaNHS/>



ご寄附ありがとうございました

ご寄附は、学生の修学など大学の運営のため、大切に活用させていただきます。

日野 勝俊 様

看科大[8号]クイズ・プレゼント

問題 ○○○○制を始めました

○の中に正しい文字を入れ、下記のとおりハガキでご応募いただくか、クイズの答えなど1~5までを記載してメール(info@oita-nhs.ac.jp)でご応募ください。正解者の中から抽選で3名様に図書カード(2,000円分)をプレゼントします。

<p>郵便はがき</p> <p style="text-align: center;">8701201</p> <p>大分県立看護科学大学 事務局 行</p>	<p>大分市大字廻栖野 294419</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クイズの答え 2. 郵便番号 3. 住所 4. 氏名(年齢) 5. 記事のご感想や本学へのご意見
--	--

【締め切り】8月末 当日消印有効

当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

看護ひとくちメモ



暑い夏を乗り切ろう! 夏バテ予防

これから暑い夏を迎えます。暑いからといって冷たいもの食べすぎ・飲みすぎは夏バテの原因となるのでご注意ください! では、なぜ冷たいものが夏バテを引き起こすのでしょうか?

冷たいものの飲みすぎは胃を弱らせる!

冷たいもので胃の温度が下がり、胃が食べたものを細かく分解して栄養に変える「消化」を助ける胃液が水分で薄まります。また糖分は消化するための胃の動き「ぜん動」を弱めてしまいます。

消化する機能が弱くなると...

- 食欲がなくなる
- お腹が張って気分不良となる
- 下痢しやすくなる

※この状態が続くと...

- 強い疲労感でめまいなどを起こす
- ウイルスなどへの抵抗力が弱まり、風邪などを引きやすくなる

上手く組み合わせる夏を乗り切ろう!

- 水分
水分補給は大切ですが、冷たいものを一気にとることはなるべくやめて、少しずつ飲みましょう。
- 冷房
我慢して暑い部屋にいと熱中症になります。冷房の設定温度と外の温度差は5℃以内にしましょう。
- 日差しをさえぎる
窓からの日差しはカーテンなどを利用し、暑さを軽減させましょう。窓の外に設置する「緑のカーテン」や「すだれ」はさらに効果的です。
- 涼しい服装をする
汗を吸って乾きやすい綿や麻などの素材を選び、風通しの良い服装を工夫しましょう。
- 頭だけ冷やす
冷たいおしぼりなどで顔や首筋を冷やすと涼しさも得られ効果的です。

Schedule [スケジュール]

7月	11日(月)~15日(金)	初期体験実習(1年次生)
	17日(日)	オープンキャンパス
	21日(木)	夏期休業開始
	21日(木)~8月5日(金)	小児看護(保育所)実習(3年次生)
8月	27日(土)	大学院入学試験
	9月	2日(金)~11月25日(金)
5日(月)		夏期休業終了
30日(金)		前期授業終了
10月	3日(月)	後期授業開始
	29日(土)	看護国際フォーラム
11月	19日(土)	特別選抜試験(推薦・社会人)
	12月	7日(水)~8日(木)
9日(金)~22日(木)		看護アセスメント学実習(2年次生)
24日(土)		冬期休業開始

注)スケジュールは、変更になる場合があります。

